

# 城北学園同窓会 常任幹事会通信

平成十五年二月二十八日

第 8 号

## 今年の総会・ホームカミング

六月七日(土)午後三時三十分から

今年の同窓会総会は六月七日(土)午後三時三十分から学園講堂で、四時からホームカミング(卒業生の母校での懇親会)を食堂で開催することとなりました。

そのための代表幹事会議が、一月十八日(土)午後三時から、引き続き四時から、代表幹事も参加してホームカミング運営会議が開かれました。司会進行・佐藤幹事長。

### 代表幹事会議

出席者十八名

#### (一) 平成十五年度同窓会事業計画(案)

- ① 総会の開催およびホームカミングの実施
- ② 平成十五年度の同窓会名簿の発行
- ③ 同窓会報の発行

#### (二) 同窓会活性化に向けてのご提言

##### ホームカミング運営会議 出席者二十七名

運営面についてのご意見および提案

##### ホームカミングの対象卒業年度は11回生から15回生

十一回生(昭和三十四年三月卒)	四三七名
十二回生(〃三十五年)	四九三名
十三回生(〃三十六年)	五五二名
十四回生(〃三十七年)	五五八名
十五回生(〃三十八年)	五〇〇名
計	二五四〇名

同窓会活性化のための提言、意見、報告が二つの会議で活発にだされました。

### ホームカミングについて

・ 昨年のホームカミングをきっかけに盛り上がってきている。同期の各クラスに呼びかけ、同期会を開く準備をしている。地道に声を掛けてゆく以外にない。草の根でやってゆく。

・ 連絡体制をとりたい。実行委員会を開いてもよい。

・ 人集めで悩んでる。枝葉で集めないといけない。各クラスに三〜四名の運営委員を任命してもらって集めて行かないといけない。

・ ホームカミングの趣旨がよくわからない。

・ クラス会に来て、ホームカミングには来ない。

### 総会について

・ 各卒業年度すべてに出来ることだと思うが、クラス会には出てきても、総会には出てこない。

・ 卒業してから、学校に来る人が何人いるか。校門を気軽にくぐれない。イベントがある時はお知らせをしたかどうか。卒業生が学校に足を向ける工夫が必要。

・ 総会の中味、また総会には卒業

生は誰でも出席できることを知らない。そのため同窓会報に「総会」を知らせる記事が載っていても、総会への出席の呼びかけと受け止めていない卒業生もいる。

・ 近所にいる卒業生から「毎年、同窓会をやっているの?」と聞かれた。同窓会があり、いろいろな活動をしていることを知らない卒業生がいる。

### クラス会・同期会について

・ クラス会を同期会に拡げるため準備会を池袋で開いた。目標五十人ぐらいで打ち合わせをする。

・ 連絡網をシッカリつくればというが、運動部OBなども現在集める方法で苦慮している。

・ 連絡網が出来ていて、期を越えて、同じ担任のクラスが集まるが、大きくなったときどうしたらよいか。また二、三人の幹事では連絡しきれない。連絡をしてくれる専任の女性を同窓会で雇えないか。

### (会長)

○同窓会活動が今より数倍活発になれば、専任の女性が必要になるかもしれないが、現在はそれだけの仕事がない。

### 同窓会名簿について

・ 名簿の訂正がされていない。正確を期すためにどうしたらいいか。名簿に赤字で訂正を書き込んで送った方がわかりやすいければそのようにする。

・ 卒業生の情報が知りたい。期ごとに名簿をしっかりとしたもの。

### (会長・事務局から)

○名簿の訂正は赤字書き込んで送ってもらう方がよい。

○平成十六年三月に、平成十四年、十五年度卒業生を記載して同窓会名簿を発行する。名簿の訂正原稿は年内に事務局にお願いしたい。

○昨年、千葉大学理学部に飛び級で入学した生徒について、名簿に記載する。

### 職域・地域に

#### 卒業生の組織を

・ 城北の卒業生はいろいろな職種にたずさわっている。職域で卒業生の組織がつけられるのでは。

・ 派閥をつくるという問題もあるが、職域に属していない卒業生は地域でつくったらどうですか。

### (事務局から)

板橋区役所に卒業生が五十数人いるので、そのことを連絡したら、役所で禁止されているといわれた。

### 同窓会報について

・ 会報がつまらない。公報のようなものでなく、マンガ感覚で、形にとらわれないものに。

・ 学校にホームページはあるのか。また同窓会専用(同窓会のホームページ)はあるのか。

### (事務局から)

○総会・ホームカミングの案内を、四月上旬発行の同窓会報でするが、趣旨が伝わる工夫をしたい。よいアイデアがあったらお願いしたい。

○学校のホームページはある。また同窓会コーナーも設けてあります。

### 総会のお知らせを

学校と朝日新聞のHPで

学校のホームページの同窓会コーナーと朝日新聞マリオンホームページ(読者の広場)同窓会・ふるさと(会)で、六月七日の総会・ホームカミングのお知らせをしています。

<http://www.johoku.ac.jp>

[/dousoukai15.htm](http://dousoukai15.htm)

<http://www.asahi-mullion.com>

[/dousoukaidousoukai.html](http://dousoukaidousoukai.html)

# 四十二年目の授業

石渡達彦

(中学12回・高校14回生)

平成十三年七月に、恩師江口曼先生を囲んで、城北中学のクラス会を開きました。

その席上で、だれかれともなく、もう一度、江口曼先生の授業を受けたいとの声が上がリ、平成十四年六月二十三日(土)に懐かしの城北学園の教室をお借りして行われました。

六十六名の卒業生中、二十二名に参加していただきました。江口先生の授業を受けるのは、なんと四十三年振り、教室に集まると当時のままにタイムスリップ、緊張した表情でどこか懐かしく、司会のもと自然に授業にはいりました。

テーマは「地域と気質」、その地域によって性格がつけられていること、利点もあり欠点にもなっているなど……、普段はなごやかで優しい話し方をされますが、いざ教壇に立たれますと、お姿や口調は昔のまま迫力と説得力があり、ものすごい集中力のある講義で、背筋がゾクゾクする思いでした。

授業後、会議室に移り懇親会を行い、各自の近況報告や昔話を花を咲かせ、しばらくの間、童心に返り楽しいひと時を過ごしました。

# 重松開三郎氏(旧一回)

勲五等双光旭日章を受章

昨年秋の叙勲で、重松開三郎氏(株式会社重松製作所取締役会長)

が、多年にわたる産業界への貢献、呼吸用保護具をはじめ労働衛生保護具の研究開発、日本工業規格の制定等に寄与された等の功績により、勲五等双光旭日章を受章されました。

同社は、父君の初代社長重松健造氏が昭和四十年秋に勲五等双光旭日章、二代目社長高野喜義氏が昭和五十一年春に勲四等瑞宝章を受章されており、社長が三代連続して受章されました。

# 寄稿のお願い

4月上旬発行の「同窓会報」に、たくさんの寄稿をお願いします。

- ・クラス会・同期会の開催
- ・体育会OB会、同好会の活動
- ・会員皆様の近況

# (原稿の送り先)

〒一七四一八七二

板橋区東新町二一八一一

城北学園同窓会 廣瀬正徳宛

電〇三(三九五六)三二五七

Fax(三九五六)九七七九

# 同期の卒業生への連絡に

ご利用ください

同期への呼びかけ・連絡を、同窓会報と一緒に郵送できます。事務局に連絡して下さい。

# 「城北」私の故郷

山根英一

(旧4回 昭和23年3月卒)

森の物語「美しく青きドナウ」

私が趣味として鍵盤楽器をいじり始めてから五十年余が過ぎました。サラリーマン現役時代は多忙のため思うように弾く時間がとれず、長期間楽器から遠ざかることもたびたびでしたが、現在は毎日のようにピアノに向かって練習をしたり、家内の歌の伴奏をして過ごして居ります。

そもそも私が音楽に惹かれた発端は、城北中学時代のこと、敗戦により連日連夜の空爆から開放されたものの、一面の焼け野原になった東京で、当時の私も生きる目標を失い空虚な心をもて余していました。当時住んでいた小竹町の家の納戸を整理した折、懐かしい蓄音機を見出しました。それは英国製の手回し式蓄音機で、昭和初期に保険会社のロンドン駐在員だった父の引越荷物として持ち帰ったもので、レコード盤数十枚も発見しました。当時、音楽に関して何の知識もなかった私ですが、ベートーベン、モーツァルト、ハイドゥン、チャイコフスキー等々、クラシック界の巨匠の曲に陶酔、くり返し聴くうちに心が充足され、急速に音楽の世界にのめり込んでいったのです。外にも好んで聴いたのは、ヨハン・シュトラウスのウイナワルツで「ウイーンの

森の物語」を美しく青きドナウ」のリズムとメロディは心底から、体を揺すり上げられる心地良いものでした。そのうち聴いているだけでは物足らず、自分で楽器で音楽を表現したくなり、両親に頼んだものの、当時のピアノは大変な貴重品で高価、やむを得ず足踏み式オルガンを購入、練習を開始しました。その後大学卒業までの合間に、武蔵野音大のピアノ専科等で教育を受けましたが、殆んど独学で練習を続けました。

社会人になってからもピアノへの思い入れは衰えず、総合商社の海外赴任先、マニラ、サンフランシスコ、ヒューストンでは何時でも弾けるようにピアノを現地調達しておりました。

また海外出張の折にも仕事を離れた時に、機会があれば弾いたものです。鉄鋼関連商談で上海のホテルに滞在した際は、仕事が一段落した週末の午後、最上階のレストラン・ホールにグランドピアノが据えられているのを見つけ、従業員に尋ねたところ、自由に弾いても良いと言われ興のおもむくままにクラシック、ポピュラー曲を弾きました。十数分後、大勢のホテ

ル従業員に取り囲まれ、一曲終わるごとに拍手を送られ気がついた時には十曲近く弾いておりました。

当時の中国は一般の人たちも人民服を着用していた頃のことでした。私は中国語は殆んど判りませんが、その日を境に従業員の皆さんがとても親しい態度をとってくれるようになり「音楽の世界に国境はない」を実感しました。米国ヒューストン駐在時には、総領事公邸での毎年恒例の新年会で、立派なグランドピアノで日本の歌曲を中心演奏させていただきました。このことが記憶に残っております。このほか各地域で多くの人々と、音楽を通じ楽しんでまいりました。中学時代以来現在に至るまで下手なピアノを飽きもせず弾き続けて半世紀経過した今、振り返ってみますと、私にとってピアノ演奏とは、私自身の心の癒しであると同時に、いろいろな意味でのコミュニケーション・ツールであると思っております。

先日、ホームカミングに訪れた母校は、昔の凸凹の野菜畑は立派な校庭となり、校舎は一新しておりましたが、周辺からは在学当時の先生方、友人の思い出と共に、他にかけがいのない趣味となった音楽の世界に足を踏み入れた当時の懐かしい空気がそこはかとなく漂って来る感じがしました。

私たちの故郷としての城北学園と同窓会が何時までも健在で、発展を続けられることを祈念しております。